

どすこいかわら版

発行 墨田区 編集 NPO法人て一ねん・どすこい倶楽部

「すみだノート」発行元の下町通信社 取材

最近、墨田区の公共施設等で「すみだノート」と題したフリーペーパーが置いてある。墨田区内の様々なジャンルの情報が、大きな写真と共に楽しく分かりやすい内容で掲載されている。どんな人が制作しているのか興味を沸き、早速発行元の下町通信社の代表取締役である刈谷仁路志さんにお話を伺いました。



Q1 「すみだノート」の創刊はいつですか？

2018年1月にスタートして、その後は季刊誌として、3, 6, 9, 12月に

発行しています。毎号特集を組んで、墨田区の魅力をあらゆる視点で紹介しています。最近の9月号の特集は「すみだ昭和NOW!」です。

Q2 ネットでも「すみだノート」を見ることが出来ますね？

「すみだノート」は季刊誌としての他、ネットでも「街」「人」「暮らし」を柱に様々な情報を日々更新しています。会社の事業としては、広告、印刷、イラスト、ネット関連の企画制作を幅広く手掛けています。

Q3 「すみだノート」を発行するきっかけは？

自転車で回れる範囲の広さの中に東京スカイツリーを中心に、お相撲さんがいったり、芸者さんがいたり、江戸、大正、昭和の歴史や名残りがあり、伝統職人や町工場もあり、タウン誌の編集をする上で、こんな魅力のある街はないので、以前から墨田区でタウン誌を発行したいと考えていま

した。

Q4 様々な情報をどのように収集しているのですか？

よく「取材先を探すのが大変ではないですか？」と聞かれるのですが、一つのイベントに向かうと新たな情報をいくつも持ち帰る状況です。墨田区は年間を通じて多くのイベントがあり、それこそ土日になれば1日の中で、数十ヶ所で開催されていることもあります。それも子供から高齢者まで楽しめる幅広いイベントで、世代を問わず魅力的で活動的な人が多く、刺激を受ける人ばかりなので常に圧倒されています。(笑)

Q5 今後の目標を教えてください。

情報を通じて街の活性や生きがいを見つけてもらえる媒体に成長して行ければと考えています。また、戦前戦後から仕事を続けて、今も元気に営む高齢者の方も多いです。このことも時代が経てば大きな文化だと思っと思っています。それと何でもない街並みや路地、そこから芽生えた文化なども含め、今後失われつつある

生活の状況を取材を通じて記録に残していければと考えています。

(下町通信社編集部員の皆さんの写真)



高齢者の中にはまだネットを利用していない方が多く、この「すみだノート」の季刊誌は区内の様々な情報が楽しく分かりやすく紹介されているので、とても役立っていると思います。今後益々発展していくことを期待しております。(記者)

会社名：株式会社下町通信社
住所：〒131-0046 墨田区京島3-18-3
電話：03-6231-9269

お母さんはケーキ屋 「くずず、だなんてー!」その8 山谷 いく

6月も第2週を過ぎると、11月までは国産の苺が店頭から消える。『Keiママ』のオリジナルケーキにスライズ苺ケーキがある。スポンジを生クリームでコーティングし、上面全体は苺の赤い筋模様を生かしながらスライスして並べ、ゼリーで固めた品である。苺の品種には切ると、切口が白っぽいのが真つ赤なのがあるが、スライス苺を作るには『とちおとめ』に限る。

大塚にある洋菓子の職業訓練校*へ入学して間もない6月のことだった。

行きつけの八百屋にはもう苺の入荷がない。授業のない日は自転車地域をいくつかの商店街まで足を伸ばし、苺を捜し、訓練校に行く日は授業に遅れることは承知の上、大塚駅界隈の八百屋をバイクで回って苺を捜す。旬が過ぎれば苺は小粒で傷みやすい。また、値段は50円と高めだが、明日もなんとか苺のケーキを店に並べられ、オーダーの約束も果たせるとホッとしながら4個パックの苺の箱をバイクの荷台に括り付け、学校へと急ぐ。

教室の隅に置いていたその苺を見せなくてもいいのに、事務の先生が開いて見ていたことを、その夏の暑中見舞いで知ることになる。

同級生は大手乳業メーカーや有名菓子店に勤める20代の若者ばかりである。フランス語の授業で私の年齢は「キャラントウサンカン45歳」と教わった。最年長だった私は儀礼的と思いつつも、事務を取り仕切っている先生に暑中見

舞いを送った。それに対して、ご丁寧な先生から返信が届いた。私が1人でケーキ屋を営んでいること、5歳と8歳の娘を置いて週3回、向島から大塚まで夜学に通っていることを承知の上での便りだった。

「お客様に褒められたからといって頑張らないほうがいい。」と書いてある。健康を気遣っての助言かもしれない。だが、次の文面に「カチン」ときた。

「儲かるために低コストのくずのよな苺を買ってるんだね。」と書いてある。

「くず苺だなんてー!」先生が覗き見た6月には、未生り苺なんて聞かないけれども、粒が小さくなる。粒揃いの苺はもうない。仕方なく小粒苺は手間がかかることを承知の上でケーキに仕上げていた。

看板商品を楽しみに来店したお客様に「なんだ、ないのか」とがっかりさせたくない一心からである。

くずのように見えたかもしれない小粒苺だって、砥石で砥いだ鋭利な包丁

で1枚1枚、丁寧にスライスして並べ、艶だしゼリーを掛ければ「ぱあっ」と華やぐ。見た目にも美味しい苺のケーキが出来上がる。これは作る者には分かるから満足感であり、喜びでもある。

「事務の先生になんか・・・まあ、いいや」手にした葉書は屑入れにポイと捨てた。

*大塚にある洋菓子の職業訓練校は閉校になりました。

<11月の主菜>

手軽にクッキング 109

「焼き鮭のおろし酢」

<材料> 2人分 (1人分132kcal)

- 生鮭 (切身) 2切
- 塩 少々
- 生椎茸 4枚
- ピーマン 2個
- 大根3cm 100g
- 酢 小さじ2杯
- しょう油 小さじ2杯



<作り方>

1. 生鮭は1切を半分に切り、塩をふっておく
2. 生椎茸は、洗って石づきをとる
3. ピーマンは4等分し、種をとる
4. 1の生鮭と2・3の野菜を一緒にグリルで焼く
5. 大根おろしを作り、水気を少々切る
6. 5の大根おろしに、酢・しょう油を合わせる
7. 器に焼き鮭を盛り付け、6のおろし酢をかける
8. 生椎茸・ピーマンを添える

◆鮭の身の赤色はアスタキサンチン、ビタミンCに比べ約6000倍もの抗酸化作用があります。おろし酢で、消化を助けます。

(協力：食育支援部)

(3) 元気で100歳!! 墨田で生きよう!! 定年後の大きな生きがい発見!!

エッセイ No.166

ビニール傘の思い出

あきはば 栄子

或る日、中野駅の近くまで用事のために出かけました。その日は、曇りであったため、天気予報を信じ傘を持たず出かけました。西国駅から御茶ノ水駅まで総武線に乗



車し、御茶ノ水駅で快速に乗換えました。相変わらず混んでいます。窓から外を眺めていると、新宿駅に近づくにつれて空が暗くなってきました。私は、雨が降ってくるのではないかと心配になりました。やはり中野駅に着くと、小雨が降り出していました。傘を持っていない私は、駅で困ってしまいました。

れないと買えません。辺りを見渡しながら、ふと、改札の傍の片隅にビニールの傘が立てかけてあるのが目に入りました。見ていると通る人達は関係なさそうに通り過



ぎるばかりでした。

近くの駅員さんに「この傘は？」と聞くと、「全然分かりません」とのことでした。

「この傘を借りても良いでしょうか？」と相談したら、「結果はもうなのですが、」駅には関係ないので、どうぞ」とのことでした。

私はホッとして、その傘をさして用事を済ませ中野駅に戻り、そのまま傘を持ち西国に帰りました。

西国駅は小降りで、家まではタ



クシーで帰るので、(この傘はどうしよう)と、思いました。ふとまた誰かの役にたつてほしいと思い、改札を出た傍の広告の台に、そっとかけました。

心の中で「へっぽくもありがとう。また誰かの役に立ってね」と傘に心を込めて置きました。

それから少し歩くと、30歳くらいの男性に、「あの傘はいらないのですか？」と後から声をかけられました。まあ! 早いこと!と思いました。

私は、「あの傘は、中野駅でもらって来たもので、私はタクシーで帰り、誰かの役にたてばと置いたので、どうぞ」と言いました。

30歳くらいの男性は「じゃあ借ります」とお礼を言いました。

私は、(自分の傘じゃないのに)と、思いながら、心の中で傘に「また役にたつて良かったね!」と気持ちも軽くタクシー乗り場へとむかいました。

あのビニール傘は、その後どうなったのでしょうか。

でももう2人の人の役にたちました。



「シニア人材バンク

登録者募集中」

ボランティア活動をしたい方の登録と依頼に応じた派遣を行っています。

パソコン、麻雀、将棋、子育て支援、日本語支援、家事援助、生活支援、健康教室のお手伝い、各種講座、講演会の企画から会場の準備作業など、どなたでも気軽に参加できる、さまざまな活動をしています。

皆様の知識、経験、特技、趣味等を地域で活かしてみませんか?



令和元年度 第3回



セカンドステージセミナー

～元気で100歳 今年も墨田で粋に暮らそう～

歌手・吉岡リサ氏 ♪(^ ^♪♪♪♪)

「童謡からシャンソン・ジャズまで」

日時：令和元年 12月 18日 (水) 午後2時から4時まで

内容：第1部 ◇歌手 吉岡リサ氏

第2部 ◇簡単なストレッチ体操 柘植哲夫氏(理学療法士)

◇みんなで一緒に歌いましょう 吉岡リサ氏(歌手)

会場：すみだリバーサイドホール2階イベントホール(墨田区役所併設)

参加費：無料

定員：200名

☆どなたでも、お気軽にお越しください☆

お電話にて、以下へお申し込みください。(平日 午前10時～午後4時)

NPO法人 てーねん・どすこい倶楽部 事務局 ☎ 5631-2577

■主催：墨田区

■企画・運営：NPO法人 てーねん・どすこい倶楽部(墨田区東向島1-17-8)



つながる
墨田区

発行 墨田区福祉保健部高齢者福祉課
〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋1-23-20
電話 03-5608-6168

編集 NPO法人 てーねん・どすこい倶楽部
〒131-0032 東京都墨田区東向島1-17-8
電話 03-5631-2577 FAX 03-5631-2578
(受付時間：平日午前10時～午後4時)
メール tehnendosukoiclub@jcom.home.ne.jp
ホームページ <http://tehnendosukoiclub.jpn.org/>

今年、台風が各地で猛威を振るった。強風で屋根が飛び、電柱が倒れ、豪雨で河川が氾濫し、山が崩れ、多くの家屋が浸水した。それも一度でなく、二度も三度もあった。先月、台風が去った後、心配になり、隅田川の水位を見に行く。川辺の遊歩道が浸水していた。こんな風景は見たことがなかった。いつもの穏やかな隅田川も、こうなると恐ろしく見えてきた。絶対に氾濫しないように願うばかりです。

編集後記